

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 4月号

2017年4月14日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：高澤 信哉（ハートライフ病院）

「日本プライマリ・ケア連合学会 第12回九州支部総会・講習会」参加報告

公立久米島病院 新垣 美鈴

平成29年2月11～12日に沖縄県医師会館で開催された日本プライマリ・ケア連合学会 第12回九州支部総会・講習会に参加しました。大会テーマは「プライマリ・ケアにおける共時性と通時性 ～地域間・多職種間連携と世代間連携～」でした。大会事務局を務められた仲本病院の仲本先生の熱い思いがあり、地域間や職種間の連携も大事であるように世代間の連携も医療の継続性においては欠かせないという事でこのようなテーマになったようです。

初日には、医学生企画の「琉球 DASH 島」という名前で、医学生がぜひ経験すべき離島・へき地実習についてグループワークがありました。当久米島病院でも北は旭川から琉大まで医学部生の離島へき地実習を受け入れており、地域連携室と一緒に患者の退院支援を行っているのですが、他の地域や他の病院の仕組みや医学生がどのような事を学んだのか等聞ける機会になり楽しかったです。また、実習を受け入れている医師の方々がプライマリ・ケアを志す医師に何を求めているのか聞くことができました。地域にはその地域特有の病気やけが、生活習慣があるので地域を丸ごと理解する、その地域の住民になって考えることが大事なのだそうです。

その他、「沖縄の医療史を知ろう」のグループワークでは、戦後沖縄の医療の発展には公衆衛生看護師（公看さん/今の保健師）の活躍が欠かせないという事がどのチームからも上がっており、戦争中に大勢の犠牲者を出したマラリアを撲滅できたことなど、沖縄の医療の歴史は看護師と医介補抜きに語れないそうです。

2日目は当法人の沖縄地域医療センター長である崎原医師による「沖縄の医療～ソロプラクティスとプライマリ・ケア～」の基調講演がありました。崎原医師の実践してきた沖縄県の断らない救急医療が全国でどれだけ難しいか、それを実践している沖縄県がどれだけすばらしいかという報告は、急性期を担うものとしては大いに励みになりました。また、離島やへき地でたった一人のドクターが実践しているソロプラクティスこそまさにプライマリ・ケアであるという報告は全国の離島医療を担う方々にも励みになったと思われます。特に

CONTENTS

「日本プライマリ・ケア連合学会 第12回九州支部総会・講習会」参加報告	1～2
平成28年度 入退院支援連携デザイン事業 北部地域実務者研修会 開催報告	2～3
めだかの学校の参加報告書	3
理事会議事録	4～5
福祉の窓	5
コラム	6

沖縄地域医療センターでは一人職場の医師に年間50日のオンコールも対応しなくていい完全な休みを提供できることを目指して、応援医師を派遣する仕組みづくりをしているという発表には九州各地からおいでの先生方には好評を得ていました。医師という職業の重圧感を改めて考えさせられ、その診療を支援するコメディカルも知っておくべきことだと思いました。

一番おもしろかったのは『公開地域ケア会議：医療と介護の連携を考える（ギャップを意識する）』です。宜野湾市の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、等の方々が登壇し壇上で模擬地域ケア会議を行っていました。地域ケア会議が円滑に進むためにどのような情報を提示するのか、ケアマネジャーが困っている状況を理解し、患者の状況を把握し、実りある会議ができるような質問や意見を発表することの意義について学びました。実際に地域ケア会議にMSWが参加できる機会は少ないと思いますが、かかりつけ医の方々は参加する機会も多いようで、会場からも医師からの意見が活発に飛び交っていたことが印象的でした。MSWの立場からは、退院前にカンファもしたし、ケアマネにも情報提供もしたし十分連携していると思っていたことが、どんなに情報を提供しても相手のほしい情報と一緒に考える姿勢がなければ意味がないのだなと痛感するものがありました。この思いを忘れずにいたいと思います。

その他、退院前カンファレンスや多職種連携のTipについてのグループワークもあり、充実した2日間でした。沖縄の医療の歴史を他県の方々からの情報も交えて聞くことができ、実践的なグループワークも満載で、大満足の講習会でした。皆さんも一度は参加してみたらいいと思いますよ。次回の沖縄開催は8年後のようです。次回を楽しみに。



平成28年度 入退院支援連携デザイン事業 北部地域実務者研修会 開催報告

勝山病院 山城 つきえ

3月5日（日）に、県内4番目の北部地域実務者研修会が名護市役所羽地支所ホールで行われました。会場は多野岳の麓にあり静かな山あいの場所で当日は快晴の天気にも恵まれました。広い北部地域ですが、南は宜野座村、北は国頭村、離島含め56機関、130名の参加者がありました。午後のシンポジウムでは北部地区医師会病院MSWの宮城郁美氏、県立北部病院退院支援看護師の宮平隼一氏、二見の里ケアマネの山川広美氏、はびねす訪問看護ステーション管理者の藤島広美氏、勝山病院作業療法士の松田仁孝氏、名護市包括支援センター主幹、大城智美氏の6人のかたがそれぞれの職種の役割と現状、課題を報告して頂きました。入退院の連絡、サマリー等の情報提供がない事やケアマネより発行されている

《入院時情報提供書》の活用がされていない事、急性期病院の退院支援体制の現状等の報告がありました。

引き続き、休憩無しでワールドカフェに望み“在宅入退院支援でうまくいった事、いかなかった事”をテーマに2ラウンド行い（事前に職種と地域が偏らないようにグループ分けをしました）、活発な意見交換と、お互いの状況を知ることができました。参加者から“看護師の方と気軽に話しができた”“お菓子がおいしかったけど不足だった”など冗談まじえながら好評でした。今回研修後に、受講証明書を発行し参加者の中途退室の予防に備えました。

固定席、休憩無し、受講証明書の発行の効果もあり数名の退席に抑制されたと思います。

研修後も参加者から富樫先生の講演を聞いて“日頃の自分の行動、アプローチを反省した”“自分の行動をコントロールし、ベビートーク注意“など考えさせられた講演だったとの声や”他職種の方と意義のある情報交換と交流ができていい研修でした”とお礼の意見が多数あり、準備と不安に追われた日々が報われた感がしました。

北部地域ではケアマネとMSWによる合同研修会、情報交換を定期的で開催しており
今後は個別のケース会議、退院支援マニュアルの作成を目指しています。今回の研修の準備もケアマネ、北部圏域全7病院の参加、協力がありました。前日の会場準備は土曜日の午後4時半の時間にも関わらず全員集合でおこない連帯することができました。

今回の研修を《地域包括ケアシステム構築》へ向けてのステップとして拡大していきたいと思えます。



めだかの学校の参加報告書

ハートライフ病院 川満 慎吾

今回は那覇市チャージがんじゅう課より講師を招き、平成29年4月までに各市町村で実施される介護予防・日常生活支援総合事業について学ぶ場となりました。総合事業の中身として、要支援1・2の方で介護予防給付のうち「訪問介護」「通所介護」が総合事業へ移行されることや、介護認定が非該当の方でも専用の基本チェックリストで一定の基準に該当すれば必要に応じてサービス利用が可能となること、各市町村で訪問型・通所型サービスとして多様なサービスの創設(那覇市のサービスとして生活支援型訪問サービス、地域支え合い型訪問サービス、住民ボランティア主体通所型サービス等)がなされることがあげられていました。各市町村が独自の多様なサービスを創設できる一方、地域差が生じてくることも課題としてあがってくると考えられます。それぞれの市町村にどのようなサービスがあるのかを把握し、患者・ご家族・地域住民へ必要な情報提供ができればと思います。

話は変わりますが、平成28年度のめだかの学校の全日程を無事に終えることができました。会の運営を行って頂いた皆様につきましては、ご協力ありがとうございました。一息つく間もなく年度が変わりますが、4月に平成29年度のめだかの学校の行事計画を皆さんと相談していきたいと考えております。日程につきましては後日連絡係から連絡する予定です。業務終了後の遅い時間からではありますが、多くの参加者が集まることを期待して報告書の結びと致します。



平成29年3月 理事会 議事録

開催日時	2017（平成29）年3月21日（火）19:00～21:00
場 所	那覇市立病院 1階
出席者	樋口、伊禮（書記）、仲地、新垣（司会）、奥平、香村、石郷岡

【各部局報告】

1. 研修部（香村）

① 議題1. 各研修について

- ・めだかの学校 4月中に次年度の活動計画をたててもらおう予定。5月総会時には報告。
- ・めだかのホームルーム 4月は開催予定なし。
- ・めだかの放課後 4月は開催予定なし。
- ・OGSV 4月開催予定なし。

② 議題2. 中堅者研修（10月後半予定）の費用について

- ・会員→1500円～2000円
- ・非会員→3000円～4000円
- ・上記内で参加費用を設定する。

③ 議題3. 沖縄大会（中堅者研修）について

- ・中堅者研修は、九州大会と同一会場で調整できるように。
- ・開催日時は2018年11月23日（金）～11月25日（日）が候補日。
- ・5月総会までに沖縄大会の実行委員を立ち上げる。
→4月の理事会で推薦案を出し内諾を得る。

④ その他研修について

- ・「医療ソーシャルワーカーリーダーシップ研修」
開催日時：6/19～6/21
- ・平成28年度沖縄県介護支援専門員研修向上委員会
開催日：3/30（木）→樋口会長参加予定。
- ・医療ソーシャルワーカーの地域活動セミナー（～在宅医療介護連携推進事業から～）
開催日：11/18（土）
→医療ソーシャルワーカーによる地域活動の実践報告を樋口会長が行う。

2. 広報部（仲地）

4月号担当 ハートライフ病院 高澤さんが編集担当 3/27締め切り

- ・トピックの継続可否→次年度も継続。
- ・ニュースコンテンツの検討。
 - ・はいさいワーク（県立南部医療センター）（県立八重山病院）
（大浜第一病院）（西崎病院）

3. 樋口会長

- ① 地域両立支援推進チームの日本協会推薦枠に琉大病院（大久保氏）を県協会から推薦。
- ② 入退院支援連携デザイン事業関連
 - ・ガイドライン内容について
 - ・平成29年度計画（案）について→次回理事会で再度検討。

【次回の理事会】

日時	4月17日(月) 18:30~
場所	那覇市立病院
担当	司会：又吉 書記：泰 連絡係：伊禮



福祉の窓

▷684

近所にいる認知症の高齢者が、一人で徘徊するのをよく見掛けます。小学生がからかうのが気になります。認知症についてあまり知らないため、どう注意すべきかわかりません。認知症について学ぶ方法はないでしょうか？

認知症を学ぶ方法は

サポーター養成講座活用を

高齢者の約4人に1人が認知症またはその予備軍と言われ、高齢化に伴い認知症はさらに増加が予想されています。国の認知症施策では「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す」とし、国民の認知症への理解と協力が求められています。

その一環として、「認知症サポーター養成講座」が開講(無料・要申し込み)されています。講座では、認知症の症状や診断、治療や予防、接し方などについて学び、受講者が認知症のサポーターとなることを趣旨としています。講座は、地域の公民館や一般企業、小・中学校での開催も可能で、ビデオや紙芝居、寸劇

など受講者の特徴や年齢に合わせた内容となっています。しかし、この講座で言う「認知症サポーター」とは、特別な技術や専門家ということではなく、認知症を正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かい目で見守る「応援者」を意味しています。認知症は誰にでも起こり得る病気であり、認知症を含むすべての高齢者に優しく関わることが、全ての人が自分らしく暮らせる社会の実現につながります。

認知症サポーター養成講座の内容や申し込みの相談は、お住まいの地域包括支援センター、市町村の高齢者福祉相談窓口へお問い合わせください。

(沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 新城麻理子)

県ソーシャルワーカー協議会は福祉にまつわる相談を受け付けます。宛先は、〒901-2299宜野湾市、宜野湾郵便局私書箱144号「福祉の窓」係まで。



・ある日の新聞に目が止まった。若年性アルツハイマー型認知症であると顔と名前を公表した男性が、自らの体験を交え講演を行ったという記事である。その男性の顔と名前に見覚えがあった。というのも数年前、外来相談で何度かお話をさせて頂いた方だったからである。当時は、営業のお仕事をされていたが、病気になってから人の顔や名前を憶えられない、日常生活でも支障がでてきており、一家の大黒柱でありながら仕事もままならない状況にご本人は焦りや時には苛立ちを非常に感じられている様子であった。主に、制度の手続き等についての相談をさせて頂いたが、そのうち治療の為に入院されたり、職業訓練の為に他院へ行かれる等ありお会いする機会も無くなっていた。

記事を見ると、現在も同じ会社でお仕事を続けられている様子で「職場の配慮と理解のおかげで、仕事を続けられている。感謝の気持ちでいっぱい。自分らしく働き生活できている」と思いを語っておられた。他にも、講演活動等精力的にこなされているようで、また、今後は自身の体験をまとめた本を出版する予定をされているとの事。

正直とても驚いたのと、その挑戦し続ける姿に脱帽である。病気を発症されてからこれまで経験された多くの葛藤や苦しみは想像も及ばないものだが、ご自身の努力と周りの協力でここまで来られたのだろう。「認知症だから何も出来ないではない。苦手なことはあるが、色々な事が出来ると伝えたい」とも話されていた。

日々相談業務にあたる中で、その人の持っている力を損ねないような、意思決定、自立に向けた支援ができるよう心がけているが、人の持っている「チカラ」の可能性を見せて頂いた貴重な学びとなった。



～編集後記～

始まりました！新年度！

それぞれの職場に、初々しい新入職員のみなさんが入職されたことでしょう。そんなフレッシュな方たちからも刺激をもらい、自分がフレッシュだったあの頃を思い出しながら(笑)、フレッシュな気分で頑張っていきましょう(^O^)

ゴールデンウィークはもう目の前ですよ！

今回も、快く寄稿を引き受けて下さった皆様、ありがとうございます。

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ
<http://www.mswoaswhs.jp/>

